

耳鼻咽喉科・頭頸部外科・眼科・形成外科の高度な治療が同時に可能

堀病院

得意分野

内視鏡下副鼻腔手術、
鼓室形成手術

宇高毅 院長

福山市沖野上町3-4-13

084-926-3387

🕒 診療時間：8:30~12:00 / 15:00~18:00

🏠 休診日：耳鼻咽喉科・頭頸部外科：土曜午後、日曜、祝日
眼科：土曜午後、日曜、祝日
内科：木曜午後、土曜
形成外科：(火曜のみ診察)

🚗 駐車場：87台

👥 スタッフ：医師23人(常勤6人、非常勤17人)、看護師38人、薬剤師3人、臨床工学技士8人、言語聴覚士4人、臨床検査技師1人、視能訓練士2人、看護助手3人、管理栄養士2人、事務26人

📄 実績：耳鼻咽喉科・頭頸部外科：鼓室形成術 / 62件(うち内視鏡30件)、鼻内副鼻腔手術(内視鏡下) / 554件、下鼻甲介切除術・鼻甲介切除術 / 702件、口蓋扁桃手術 / 16件、声帯ポリープ切除術(喉頭鏡) / 11件など、眼科：硝子体茎頭微鏡下離断術 / 20件、水晶体再建術(眼内レンズ挿入) / 470件ほか(2023年1~12月)

●高度なレベルの手術に対応する専門病院

同院は、耳鼻咽喉科・頭頸部外科・眼科・内科・形成外科を併設している。特に、国内では珍しい感覚器診療と呼吸器診療に特化しており、耳鼻咽喉科と眼科の高度な治療が行える、全国で数少ない専門病院として定評がある。宇高院長は耳鼻咽喉科を担当し、一般外来だけでなく、入院を伴う手術まで幅広い治療を提供している。年間総手術件数は1,600件を超え、中耳炎、蓄膿症、白内障などの各科単独の手術はもちろん、眼窩骨折や鼻涙管閉塞などの耳鼻咽喉科・眼科の境界領域の手術まで高いレベルで幅広く対応できるのが特徴だ。同院のある福山市をはじめ、尾道市、三原市、岡山県西部といった近郊地域はもちろん、広島市や愛媛県、山口県から通院する患者も少なくないのだという。

また、医療機器の専門医療職である臨床工学技士、聴覚障害などによる言葉の聴こえに問題を抱える患者を支援する言語聴覚士を新たに増員し、専門医療職同士の連携を深めることによって、より良い診療体制を整えている。

●最適な医療の提供を目指し、
院内のDX化を積極的に推進

院長が特に重きを置いているのは、「診察技術の向上」および「院内の滞在時間を短くすること」だ。特に院内滞在時間の長さは現医療環境において大きな課題で、病院に行く時間が長くなることから通院がおっくうになり治療の遅れの原因になることがしばしば。そのため、同院をはじめ、系列のサテライトクリニックでは受付から会計までのシステム効率化を図り、病院の滞在時間を可能な限り短縮。診療のインターネット予約が簡単にできるアプリを独自開発し、スマホをかざすだけで(診察券不要で)受付が完了するシステムや、LINEを使った予約システム、自動精算機を導入するなど、院内のDX化を積極的に推し進めている。診察後に会計を待たずに帰宅できる「医療費後払いシステム(有料)」を中四国地方で最初に導入したのも、同院の功績だ。

院長のモットーは、「最新・最適の医療を迅速かつ安全に提供する」。実際、常に新しい情報をキャッチするため積極的に学会に参加し、最新の医療技術・医療機器を取り入れることを心がけている。

院長は耳鼻咽喉科の診療機器に関して、「全国の総合病院以上の機器を備えている」と自負している。外科手術用内視鏡システムをはじめ、近年では、AR(拡張現実)技術を用いて手術機器の挿入方向をモニターに表示できる「手術用ナビゲーションユニット」を導入。これにより、耳鼻咽喉科手術のさらなる繊細な手術動作が可能となった。



診療の様子

「地方の開業医は狭い世界に閉じこもりがちで、最新の医療から離れていく傾向にあります。しかし、それは当院を頼りにしていただいた患者さんに対して失礼なこと。可能な限り、あらゆる手段を使ってゴール（治癒）を目指した治療を行っていきます」と院長は話す。

●幅広いニーズに対応し、地域医療に尽力

同医療法人では、地域医療に一層の力を注いでいる。2011年2月に東手城医院（耳鼻咽喉科・アレルギー科）、2020年7月には東手城クリニック（形成外科・皮膚科）、2022年7月には春日クリニック（整形外科・リハビリテーション科）、2023年8月には東手城にこにこ接骨院を福山市内に開設。診療科をまたぐ境界領域や、入院が必要な手術への連携を図り、あらゆる医療ニーズに対応している。また堀病院内には2015年4月に眼科、2023年4月にめまいセンターを開設し、循環器内科、脳神経内科、脳神経外科、精神科、整形外科などの周辺科と協力体制をしいている。広島県だけでなく県外からのめまい患者も引き受け、赤外線フ렌ツェル眼鏡、電気眼振図、重心動揺計など一般的な前庭機能検査から、前庭誘発筋電位（VEMP）、vHIT検査、MRIなど最新の検査にまで対応している。

備後地域にとどまらず、全国の医師と協力しながら治療を進めていくのが同院の特徴だ。「少人数の病院では、時間の経過とともに技術向上が滞りがちになる可能性があります。ですから、常に外部の医師たちと互いを刺激し合うことで、医療技術の向上に努めています」

* DX化／DXはデジタル・トランスフォーメーションの略。デジタル技術によって社会や生活を変えること



外科手術用内視鏡システム
（画像提供：オリンパスマーケティング株式会社）

宇高 毅 院長 （うだか・つよし）



PROFILE

経歴 愛媛県今治市出身。1996年産業医科大学医学部卒業。産業医科大学助教、資格 九州労災病院耳鼻咽喉科部長、熊本労災病院耳鼻咽喉科部長を経て、2010年10月同院赴任。2011年4月院長・理事長就任。得意分野は慢性中耳炎、慢性副鼻腔炎（蓄膿症）、アレルギー性鼻炎に対する手術治療。2022年6月福山市医師会理事就任。日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会認定耳鼻咽喉科専門医、産業医科大学産業医学ディプロマ。

モットー 最新・最適の医療を、迅速かつ安全に提供する

●院長の横顔

子供の頃から大きな建築物に興味があり「橋を造ったり、トンネルを掘ったりする仕事に就きたいな」と思っていた。あるとき、橋やトンネルを造る人の健康管理も重要な仕事だと気づき、働く人を支える医師（産業医）をめざすことに。

耳鼻咽喉科を選んだのは、内科的・外科的要素の両方があり、メリハリがあるから。全く縁のない福山という土地に来て、2011年に同院を継承。当初は患者の紹介もほとんどなかったが、地域医療に貢献したいとの思いからさまざまな活動に参加。現在では、耳鼻咽喉科・眼科を合わせて年間1,000件以上の紹介を受けるまでになった。（※2023年紹介件数：耳鼻咽喉科／899件）

●院長からのメッセージ／百歳まで元気に過ごすために

百歳まで元気に過ごすためには、まず日々の生活習慣が重要です。たばこや過度のアルコールは避けて、バランスのとれた食事を心がけ、適度な運動を継続しましょう。睡眠も十分にとり、ストレスを適切に管理することが大切です。また、季節の変わり目には体調を崩しやすいので、気温や湿度に注意し、適切な衣服を選ぶようにしましょう。

聴力や喉の健康は、コミュニケーションや生活の質に直結します。定期的な健康診断を受けることで、体の変化に気づき、疾患の早期発見・早期治療につなげていくことが大切です。